本を選ぶ

高校図書館版

NO. 5　1988年(昭和63年)5月10日

●発行／ライブラリー・アド・サービス

本　社（〒162）東京都新宿区下宮比町15 飯田橋ハイタウン518 TEL 03-235-6168

ぶっく・えんど

高校の課題図書

課題図書は何か知っている方は多いと思うが、どういうものか説明できる人は意外と少ないのではないだろうか。そこで少々調べてみたことをもとに御説明することにしたい。「課題図書」は、毎年行なわれている「青少年読書感想文全国コンクール」の対象図書のうち、第三類（主催者が指定した図書）にあたるものである。この催しが発足したのは昭和30年だそうで、その頃は、第一類（小説・童話・戯曲・詩歌など）と第二類（第一類以外の図書）しかなかったということだ。このやり方だと応募作品は、漱石・鷗外などの古典や評価の定まった名作に極端に偏るという限界があったという。その反省に立って昭和37年から、第三類として課題図書が設定され、以来応募作品数も飛躍的に増加し続けた。昭和30年にはわずか五万編だった応募作品は、昭和62年には三百四十四万編を数えるまでになった。しかも応募作品は、課題図書に対する感想文が断然多く、毎年児童書出版社は自社の本が選ばれるかどうか気にするようになり、色々な噂もあったようだ。確かに小学校部門に入れば、ひと夏で二十万～三十万冊も売れるので、小さな出版社にとっては選ばれるかどうかは大問題である。何とか選んでもらおうと努力する出版社が出てくるのは当然だし、様々な工夫、努力が場合によっては、あれこれの噂を呼ぶことになったのかもしれない。

ここでは、そういう噂の類の真偽を見極めようなどと言うつもりはない。もし何か問題になるようなことがあれば、感想文コンクール自体が衰退へと向うことになるだろう。今のところそういう気配もないし、この運動は子供達に本を読ませたり、本の面白さを知ってもらうきっかけ作りとして大きな役割を果していると思われる。

ところが、華やかなのは小学校部門だけで、中学校になると小学校の半分以下しか売れないし、高校の部門に至っては、中学の三分の一くらいしか売れないのが実情である。高校部門で定価の安い本が選ばれると、新聞広告代などの宣伝経費が捻出できず、結果は赤字という悲劇すら起る。考えてみれば高校は、定時制を除いても全国に五千五百校もあるので、一校で十冊ずつ備えてもらえれば、ずい分違うのにと何度思ったことだろう。せめてその半分でも事態はずい分違ったものになる。

今の高校生は、よほどの本好きでもない限り、進んで課題図書など買わないようだ。しかし、だからと言って図書館関係者を中心とする私達の側が働きかけるのをあきらめてはいけないと考える。

早稲田大学文学部や大阪経済大学経済学部ではユニークな学生を入学させるために、高校の課外活動で高い成果を収めたり、団体活動で指導的役割を果した受験生を優先的に入学させることにしたそうだ。読書感想文コンクール上位入選者も、その対象にされるという。これまで受験勉強の面では敬遠されてきた読書が、そうではなくなりつつあるのは面白い。読書は小論文を書く力を本当につける方法でもあるし、課題図書を読ませることが受験と結びつきつつある状況を、私達なりに活用しない手はないと思うのだが。

（菊池明郎：筑摩書房）

ボクが選書会をやめたのは...

笠川昭治

○
○○○○○
○

ボクが学校司書になったワケ

本題にはいる前に、まず、なんでボクが学校司書になったか話そうか。高３の時、石井桃子さんの『子どもの図書館』（岩波書店）て本を読んだんだ。で、図書館員になろうと思ったワケ。ただその時は公共図書館志向だったね。ボクの通ってた高校は新設校で、本は少ないし、利用者は少ないし、いつ行っても係の先生はカウンターの後ろの部屋でお茶ばかり飲んでるしで、いいイメージなかったからね。大学図書館てのはあまり考えてなかったな。やっぱり、図書館の華は公共図書館だよ、うん。

まあ、そんな訳で、大学は司書の資格の取れるあまりパッとしない所へ行ったんだ。で、いよいよ採用試験。司書になりたくてなったヒトはたいていそうだけど、試験があるとにかく出掛けて行って、やたら受けたね。だけどてんでダメで、結局最後の神奈川県に拾われたってワケ。

ただ問題なのは、神奈川に採用されると、まず学校図書館にまわされるってこと。その頃にはもう何でもいいって気分だったから、面接でも「はい、頑張りマス」なんてね。で、あっという間に学校に連れて来られて、慌ただしく引き継ぎされて、気がついたら図書館の整理室でボーッと座ってたってワケさ。

こうして学校司書の日々が始まった

でもいつまでもボーッとしてられないんで、前の人が残してくれた書類なんかパラパラ見てたら、こんにちはって、２年生の図書委員の女の子が訪ねてきた。で、さっそく友だちになったんだ。彼女はいろんなコトを教えてくれた。貸出・返却の方法、図書委員会の仕事、エトセトラ。おかげでちょっと安心したんで、ボクはささやかなお礼を込めて、こう言ったんだ。「何か読みたい本ある？」

と言っても、ボクが彼女に本をプレゼントしたワケじゃない。整理室にはその時未整理の本が山とあって、その中から、彼女の読みたい本を優先的に整理することにしたんだ。その時彼女が取り出したのが『カムイ伝』全４巻。そんな訳でボクの学校図書館での初仕事は、この名作とされるコミックスのカードを書くことになったんだ。

そんな風に何も分からないながらも徐々に仕事にも馴れ、新米の学校司書を迎えた図書館も順調にスタートを切ったのだった。

そんな選書会にも限界があった

ところで、図書委員会の仕事の中でスゴイッと思ったのは、利用者からのリクエストを選書会係の生徒が選択して購入するというスタイルができていたことだ。係の仕事はカウンターにある箱に寄せられたリクエストの一覧を作って、それをもとに月に一度選書会を開くことと、結果を図書館内の掲示板で利用者に知らせること。

その時は「カッキテキ」って思ったね。だって生徒から寄せられたリクエストを、言わばその代表である図書委員が選ぶんだから、これ以上利用者に近い方法はないもんね。でも、残念ながらこの選書会について、いくつか問題点が指摘されるようになった。１つはＳＦが多いこと。もう１つは、月２万円という限られた予算だから仕方ないんだけど、文庫本が多くなってしまうことだった。

１つ目の方は選書会係を希望制から、委員長・副委員長・書記・他の係の代表で組織することで図書館全体を視野に入れた選定ができるようになったんだけど、もう１つの方がこれでもダメで、ついに主任の先生と衝突しちゃったんだ。

この先生、マジメで良い先生なんだけど、あまりに選書会で選ぶのが文庫ばっかりなんで、ついにカタヨッテルって怒り出した。で、「私たちで指導しないといけませんね」だって。まったく！だから学校なんてイヤだったんだ。

ボクは生徒が自主的に選んだんだから尊重すべきだって思ってたから、そのことについては大分やりあったんだけど、結局平行線のまま、図書部で決定することになってしまったんだ。ボクは駆

け出しの司書で、向うは図書部７年のベテランだってんで、主任の主張が全面的に通っちゃった。

でも、そのあと、主任が、ポツリと言ったんだ。みんなの希望を聞いてあげないとね。リクエストした本が高いからって、買わないんじゃね。

で、ガーンときたワケ。なんで、こんな大事なことに、気付かなかったんだろうってね。ヒトは価格のみにて本を読むにあらず。高いからって買わないことがおかしいんであって、文庫云々が問題じゃあなかったんだ。それで、高くて選書から漏れた本は他の予算枠で購入することにして、一応落着したワケ。

すぐに読みたいって気持ちをどうするか

だけどここまで来ると、また違った疑問が出てきたんだ。つまり、選書会で漏れた物を他の予算で拾って買うということになると、選書会の意味はあまりなくなってしまうんじゃないかってこと。それなら選書会を廃止するか、予算枠を撤廃するべきじゃないかと思うようになったんだ。

そんな訳で、選書会について大きな選択を迫られることとなった。で、結局廃止することになったんだけど、それはもうひとつ、ある疑問がボクの中で次第に大きくなって来ていたからなんだ。

それは、今読みたい本を買うのに、なぜ１カ月も先の選書会まで待たなければならないのか。すぐに注文を出しても２～４週間も掛かってしまうのに、更に１カ月も待たされるんじゃ、もういいって思っちゃうもんね。図書委員が自主的に図書館運営に参加するって意味で選書会を持つってことは良いことだと思うけど、それと同じように利用者の読みたいって気持ちももっと大切にすべきじゃないかって気がするんだ。それに選書会だけが自主的に図書館運営に参加する方法じゃないんだからね。

で、予約制度にしてみたら…

ボクがこういう形で踏み切ったのは、公共図書館で一般的に行なわれるようになった予約制度が頭にあったからだと思う。選書会を廃止する以上、それに代わるものが当然必要だし、それは利用者にとって選書会よりメリットのあるものじゃなければならない。そして何より可能なものであること。

学校図書館は、公共図書館に比べるとグッと予算が少ないのに、公共図書館と同じ予約制度が成立するかちょっと不安だったけど、利用者層・数とも非常に限定された学校図書館なら可能だろうと判断して、踏み切ったってワケ。それに、学校図書館について語るとき公共図書館との違いばかり強調される風潮への反発もあったけど、何より学校図書館も図書館の端くれである以上、図書館の基本である予約制度をぜひとも確立したいと思ったからね。

もちろん難しい問題が山程ある。例えばマンガについてはどう対応するのか、学校で乗らないように指導しているバイクの本はどうするのか、なんてね。でも、そういうことばかり心配して、結局学校図書館では予約制度は無理なんだって結論付けるんじゃなくて、とにかく予約は大前提として持っていて、で、難しい問題を含んだリクエストの時は、その生徒とじっくり話し合って行けばきっと解決できると思うんだ。

予約によって変わってきたこと

そんなワケで、予約らしきものを始めて３年目に入る。初めは選書会を廃止するってことに一部不満の声も聞いたし、リクエストを受けたその場で、すぐに注文出すからしばらく待ってねなんて言うと、本当にって聞き返されたりしたけど、利用案内にも明記して、新入生オリエンテーションでもきちんと説明するようになってからは次第に活用する生徒も増えてきて、昨年度の受付件数は600件と、生徒の３人に１人はこの制度を使った計算になる。また、それに連れて貸出も伸びてきて、昨年度の貸出冊数は１万８千冊と、初めて生徒１人当たりの貸出冊数が10冊を越えたりもした。

だけど、それにともなって新しい問題も出てきた。それは今までの個人カード式の貸出では対応しきれなくなったこと。つまり予約された本を、今、誰が借りているかを調べるのが、とても困難になってきたんだ。

で、今年はついに思い立って、貸出方式をブラウンに変えることにした。プライバシー保護のこともあって前から考えてたんだけど、ついにね。

まあ、そんな訳で、まだまだってとこだけど、利用者にとって使いやすい図書館を目指して、とにかくがんばんなきゃネ。

（かさがわしょうじ：神奈川県立百合丘高校司書）

本づくりの現場から

松原明美

○
○○○○○
○

なで・さすり・猫目になって

なんといっても、本ができあがった時は、うれしい。見本の一冊を手にとって、重さをはかったり、表面をなでてみたり、真新しいインクの匂いをかいでみたりする。どこかに大きなミスがないだろうかと一抹の不安をいだきながらも、やっぱり、なんともいえず、うれしい。

それまで数カ月、あるいは数年、どんな本になるかなあ、どんなふうにしようか、と企み、なでたり、さすったり、くじけそうになりながらも、温めてきて、やっとその瞬間を迎えるのだもの、無理もないか。

すぐに、誰よりもその完成を待ち望んでいた著者に本を届けに行く。喫茶店のテーブルの向こうに、本の表面をいとおしそうになでたり、ページを繰って真新しいインクの匂いをかいでみたりする、ニコニコ顔がある。

本ができあがって手元を離れると、その行く末が気になる。あちこちで受け入れてもらえるだろうか。読者にちゃんと出会えるだろうか——。「どこそこでは新刊台のほかに2カ所の棚においてくれた」「○○書店で○冊うごいたよ」「追加注文がきてる」等々、営業部からの情報がはいるたびに耳がとんがってしまう。

書店や読者からの問い合わせに胸を騒がせ、新聞や雑誌をひらけば書評をさがして猫目になる。

もちろん、手ごたえがなくて淋しい思いをすることもあるし、反響の大きさに飛び上がって喜ぶことだってある。

そんなことを幾度となく繰り返してきた。だけど、昨年末に刊行した『サマーヒル少女日記』では、反響の大きさを喜びながらも、とまどい、いささか考えさせられてしまった。

「自由」ってタイヘン！

『サマーヒル少女日記』には「やっぱり自由が好き！」という副題がついている。著者は、大塚千野さん、15歳。小さな体にめいっぱいのエネルギーを秘めた、行動力抜群の明るい女の子だ。

彼女は10歳のとき、世界でいちばん自由な学校、イギリスの「サマーヒル」へたった一人で旅立った。ホームシックにかかって泣いたこともある。日本の学校でいわれたことだけやる方が「自由」よりラクなんじゃないかと思ったこともある。でも、いろんなことにトライして、自分の頭で考えて、ほんとうの自由を見つけていく——。

この本には、千野さんの5年間のみずみずしい日々が描かれている。音楽や友達について語るときのいきいきとした表現力、また、戦争や差別について無関心でいられない彼女の社会的な視点の確かさは、同世代の少年少女だけでなく、大人の読者をも驚かしたことと思う。

読者から問い合わせが殺到した。(といっても、ラジオのリクエスト番組みたいにじゃありません、念のため。一日に数件、それが連日。4カ月たった今でも折りにふれ問い合わせがあります。)

新聞広告を見た小学生の女の子が現金書留封筒におこづかいを入れて注文してくる。千野さんと文通したいと、キャラクター付の封筒で手紙を寄せてくる少女がいる。往復ハガキで、あるいは返信用切手をそえて連絡先を問い合わせてくる人がいる。

電話をとればサマーヒルについて知りたいという声。日本に出先機関はないのか？　費用はいくらくらいかかるのか？　年齢制限は？　試験は？　入学の手続きは？　転校の扱いになるのか、中退になるのか？……

受話器の向こうにはおそらく中学生。あるときは高校生、ときに小学生。お母さんも多い。「うちの娘が小4で、今の学校ではどうにも……なんとかサマーヒルに入れたい」「本人も望んでますので行かしてやりたい」。ときには延々と子育て相談・教育相談につきあうハメに陥ることもある。

おしなべてというわけじゃないけど、言葉のはしばしから、現在の学校での窒息感のようなもの

がじわじわと伝わってくることが少なくない。

残念ながら本に書かれている以上のことを私は知らない。ただサマーヒルの住所を教えるのみだ。

気の毒なほど焦りくるった母娘もいた。応答の合間に「きゃあ、おかーさん、もう問い合わせがいっぱいきてるんだって」「エンピツ！　早く！　住所書くんだから、早くぅ！」まさか先着順なんてことないと思うけどなぁと心の中でつぶやいてたら、突然「母でございます。うちの娘は今度高1なんですけど、この4月からでも入れませんでしょうかしら？」

私はだんだん心配になってきた。

より自由な教育の場を求めるのはもちろん悪いことじゃない。だけど、5歳から18歳まで約70人の生徒がいるというこのフリースクールに、もうどれだけの入学申し込みの手紙が日本から行ったことだろう？　校長先生はさぞびっくりしているにちがいない。日本からの留学生だけで占められたイギリスのフリースクールなんて、私はあんまり想像したくない。

でも一方で、この本のメッセージは伝わってるはずだと信じてもいる。自由ってタイヘンだけど、すごくステキなこと。みずから場をつくっていく。どこの場所でも、のびやかに、そして、おもいっきり生きようよって。

いずれにしても、10代が読んでくれてるってこんなにビンビン感じられて、うれしい。これまでヤングアダルト向けに本をだしても、かならずしも、10代からダイレクトな反応があったわけじゃないから。

少女から少女へのイキイキ本づくり

少女たちは求めている。リアルタイムで。自分らしく生きたい。毎日を楽しくしたい。なにかを変えたい。

私たちは、いま、まさに、そこに届ける本をつくろうとしている。その名も「少女玉手箱」というシリーズ。ファッション、音楽、手紙や電話、コミック、旅、自立のためのハウツー……10代が夢中になっていることを、モノやライフスタイルのディテールに即して具体的に取りあげる。千野さんに負けず劣らずのイキイキ少女たちが、たくさんの夢と冒険をつめこんでつくる楽しいおしゃべりブックだ。

少年たちを無視するわけではないのだけど、なによりも、いま、私たちは少女に魅かれている。少女から少女へ、ああ、これだ！ってダイレクトに響く本をつくりたい。そして大人にとっても発見にみちた本を。

それぞれ？年前にせつなくも輝かしい少女期を過ごした編集部の3人が、フリーライターや10代の少女たちとともに、ファッション探偵団・パルパル音楽隊・コミコミ倶楽部なるチームを作り、ケンケンゴウゴウの作業がはじまった。とりあえず「おしゃれ、したい」「音楽でワープ」「会うよりうれしい――Letter & Phone」（いずれも仮題）の3冊を同時に進めている。

手ごたえは大あり、だ。――

「おしゃれって、まるごとわたしです。そう、流行っていうんじゃなくて、生きかたなんだ」

いまの自分にしかできない気持のいいおしゃれしたいね。おもいっきり決めてるあの子。素顔のままで輝いてるあの子。……思わずふりかえりたくなる、素敵な少女たちからの、おしゃれメッセージ。

「音楽なしの毎日なんて、考えられない。でもレコード聴いてるだけじゃ、なんだかものたりない。わたしにも、バンドができるかしら？」

歌が上手じゃなくても、お金がなくてもだいじょうぶ。自宅録音の方法からコンサートのつくりかたまで、少女たちの知恵と経験をあつめて贈る少女のための音楽実践マニュアル。

「ムラムラっと手紙が書きたくなることがある。すごく自分のこと、言いたくなって」

表現したい！　伝えたい！　いっしょに笑いたい！　いっしょに泣きたい！　そんな気分が少女たちの心をうめつくしてる。毎日の大切な要素になってる手紙＆電話をもっともっと楽しむ方法を満載したコミュニケーション・ブック。

――こんな少女たちのワクワクをそのまま本にしたい。スリムな本にする予定だけど、手間だけはたっぷりかかる。ただいま、悪戦苦闘のまっ最中。ああ、はやく、できあがった本を手にみんなで喜びたい。反響に耳そばだてる胸さわぎの季節が待ちどおしい。

（まつばらあけみ：晶文社編集部）

よはくに

■高校生の読書、ということを考えるとき、いつも気になっていることがある。それは、読書の面白さ楽しさ、は一体誰が教えているのか、ということだ。教える、ということが不遜なら、どういうふうに読書環境を用意しているか、ということになろうか。それともうひとつ、こちらに、読書こそイチバンという愚かな思い込み、押しつけがないか、ということだ。まさか、本さえ読めばたちまちすぐれた人格が形成される、などというそれこそ恐れ入るカン違いはないとは思うが．．．

■所詮、読書という行為は極めて個人的な精神の営為であって、他人が強制したところでいいことはないに決まっている。と、私などがいまさら書くこともなかろう、と思うと案外そうでもなかったりする。カン違いの最たるものは、読書即ち名作純文学というやつだ。そう信じ込んでおいでの方がどうして結構大勢いらっしゃる、とさる高校の国語の先生から聞かされた。要するに、教育的なのだ。読書の面白さ、楽しさを分かちあわないで、読書を強いる一方では、読書という行為の本質に背を向けたことになる。読書指導というのはいろんな意味でとてもデリケートだ。（お）

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

DMかたろぐ

ビデオの図書館
岩波ビデオテーク
（企画・制作＝岩波書店・岩波映画）
5月26日新発売！
星の王子さま
原作　サン＝テグジュペリ
演出　ジャック・アルドゥアン
収録／編集　羽田澄子
（60分／全1巻　VHSのみ）定価10、000円
志賀直哉の世界
志賀直哉・里見弴・尾崎一雄
瀧井孝作・網野菊・阿川弘之ほか
（45分／全1巻　VHSのみ）定価8、000円
岩波書店　東京千代田一ツ橋　TEL 03(265)4111

年版新刊案内
TRCマークと図書館を結ぶ
YEAR'S BOOKS 1987
A４版　定価12,000円
1．当社の1987年発行の新刊案内に掲載した新刊情報約32,000件を分類(NDC8版)順に配列しました。
2．書誌データは、日本目録規則新版予備版に基づき日本図書館協会が作成、ＪＬＡ目録カード、ＴＲＣマークと同一の正確な内容です。
TRC　㈱図書館流通センター
東京都文京区大塚3-4-7　☎03(943)2221(代表)

西洋美術解説事典
絵画・彫刻における主題と象徴
J.ホール著
高階秀爾監修
西洋美術理解に不可欠。美術愛好家待望の書！
定価3900円〒200
河出書房新社
〒151 東京都渋谷区千駄ヶ谷2-32-2
電話(03)404-1201

水の惑星
地球と水の精霊たちへの讃歌
『生命潮流』『風の博物誌』のワトソン博士が自然写真家とともに描き出す、水の不思議と驚異！
椎名誠推薦＝海と水の世界の話をこんなに力強く美しいかたちで読めるのはヨロコビである。
ライアル・ワトソン著
定価3800円〒200

世界初の試み
恐竜の生態を完璧に復元した大画録集!!
地球絶滅恐竜記
◉初めて90体もの恐竜をオールカラーで一冊の本に収録。
◉必見!!未発表の超迫力恐竜がなんと17体！
※ベスト・セラー「地球絶滅動物記」につづく、待望の動物シリーズ第2弾、いよいよ5月下旬発売!!第3弾、ファーブル以来の昆虫記「地球絶滅昆虫記」も6月発売予定！
長谷川善和 監修
●横浜国立大学教授
今泉忠明 著
●日本哺乳動物学会会員
清水勝 画
●A4判変型
●豪華上製本
●256頁(カラー192頁)
●定価8800円
シリーズ3冊で地球の動物の歴史が分かる!!
㈱竹書房
〒102 東京都千代田区飯田橋2-7-3
☎東京03(264)1576(代表)

巨大技術と人間　定価2200円
科学の文化史　定価2800円
科学方法論序説　定価2600円
元素発見の歴史1（全3巻第1回）定価5800円

■図説世界文化地理大百科■
イスラム世界
中国
（第6，7回配本）各22000円

朝倉書店　東京都新宿区新小川町6-29　〒162　☎03—260—0141

美術・デザイン書出版
マール社

同封の図書目録ご参照ください

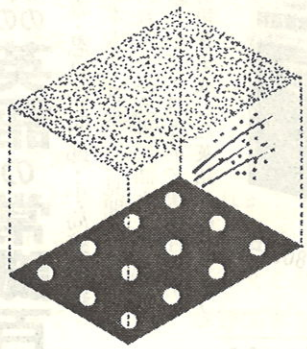
〈双書・20世紀紀行〉刊行開始！
シルクロード・キャラバン
アンヌ・フィリップ　吉田花子・朝倉剛訳
1948年、当時まだ20代だった若者が、激動の中国・シルクロードを旅した記録である。キャラバンの一員としてみずから馬を駆り、2000年の昔をそのままにとどめる革命前年のシルクロードをひた進む——。みずみずしい視点でつづる、旅と人間への讃歌。（解説対談 鶴見俊輔・長田弘）
2300円



晶文社　東京都千代田区外神田2-1-12　電話（255）4501

秋艸道人
会津八一の生涯
植田 重雄著　A5判/定価4,800円
道人は、どんな現実を拒絶し如何なる美を求めたか！
その生涯における出会いと苦悩の克服を描いた評伝。
●今回は目録を送らせて頂きます。
㈱恒文社　〒101東京都千代田区三崎町3-10-10　☎03(238)0181　振替・東京5-35824

日本産トンボ
幼虫成虫検索図説
石田昇三・石田勝義・小島圭三・杉村光俊 著
●日本産トンボのすべて202種を収録。
●195種を390枚のカラー生態写真で、7種を8枚のカラー標本写真で紹介。
●世界ではじめて幼虫・成虫の形態的特徴をずばりとらえた絵とき検索図鑑。
B5判／定価13000円
東海大学出版会　東京都新宿区新宿3-27-4　Tel(03)356-1541 Fax(03)341-1833



東京書籍 文京区本駒込6-14-9 ☎03-942-4111

児童文学、児童文化、の主要事項及び関連項目約二四〇〇収録した最新の机上常備の決定版！

日本児童文学学会 創立二五周年記念出版

児童文学事典

日本児童文学学会 編

編集顧問 石森延男／植田敏郎／福田清人／藤田圭雄／山室静／弥吉菅一
常任編集委員 滑川道夫／安藤美紀夫／上笙一郎／神宮輝夫／関口安義／冨田博之／吉田新一
編集委員 アン・ヘリング／北畑静子／桑原三郎／中川正文／原昌／向川幹雄（五〇音順）

四六判／函入り上製本／本文一、二〇〇ページ
定価九、八〇〇円（二段組）

既刊300点突破！—辞典づくり40余年—
定評ある東京堂の辞典シリーズ

●おすすめしたい必備図書



史料でたどる
日本史事典
佐藤・長岡・樋口編 斬新な史料をもとに解説した画期的な通史事典。歴史教育に必備。B6 380頁 2500円



世界
ことわざ辞典
B6判 420頁 2800円
北村孝一編 世界のことわざを類例毎にまとめ、解説をした初の辞典。

東京堂出版 〒101 東京都千代田区神田錦町3-7 ☎03(233)3741 内容見本進呈

●近代日本詩人選16
中原中也
佐々木幹郎
喪失の感情の原郷にあるものを「子守歌的なるもの」という視点から捉え、中也の〈うた〉の構造を明らかにすることで新たな詩人像を提出。11回・1800円

●筑摩世界文学大系59A
プルースト Ⅲ A
井上究一郎訳
愛の試みと愛の死を、比類ない劇的緊迫感のうちに描く二篇—第五篇『囚われの女』、第六篇『逃げさる女』を収録。画期的な個人全訳完結。88回・3500円

筑摩書房 東京都千代田区神田小川町2—8 ☎03(291)7651 振替東京6-4123

江戸博物図鑑／全3巻／荒俣宏監修
高木春山「本草図説」
●第1巻／発売中／定価3900円●
植物編
江戸文化爛熟期に残された博物学の貴重なフィールドワークをもとに編まれた彩色細密画図鑑。続刊／水産／動物

リブロポート
東京都豊島区南池袋1-16-22☎03-983-6191

ABCから専門分野まで 英語のなんでも事典！
現代人のための 英語の常識百科
岩崎春雄・忍足欣四郎・小島義郎編
一般の日本人が、日常的に見聞し、また必要に迫られて出会う外国語としての英語の諸相について、具体的で実用性のある知識・情報を集成した英語の総合事典！



定価 3,800円

研究社
☎03 (291) 2301

国際共同出版
CALGARY'88
第15回冬季オリンピック・カルガリー大会1988
国際オリンピック委員会オフィシャルブック
定価4,800円 A4判変形

●今回は目録を送らせて頂きます。

(株)ベースボール・マガジン社
〒101 東京都千代田区三崎町3—10—10
☎03(238)0181 振替・東京8-46620